

週刊

# 鋼構造ジャーナル

2021

7/26

NO. 2041

週刊(毎週月曜日発行)／購読料・1カ年52,500円、6カ月28,500円(税・送料込み)／昭和55年9月26日第三種郵便物認可／発行所・株式会社 鋼構造出版／発行人・田中貴士 編集人・大熊稔／本社・東京都中央区日本橋茅場町2-2-2 三恵ビル5階 〒103-0025 電話 東京03(5642)7011(代表) F A X 03(5642)7077／大阪支社・大阪市西区西本町1-14-3 本町コスモビル 〒550-0005 電話06(6536)2601(代表) F A X 06(6536)7603／札幌支局・札幌市白石区北郷4条3丁目2-21 〒003-0834 電話011(879)7666 F A X 011(873)3636／振込銀行口座・みずほ銀行京橋支店024-1044873／郵便振替口座 東京00130-9-13713

## おもな記事

- 年間生産高調査結果を公表／全構協・関東支部運営委 (2面)
- H形鋼は9万5000円／物調7月資材価格調査 (5面)
- 群馬県で支部会を開催／全構協・関東支部 (6面)
- コピーブル／小貫武・全構協新専務理事 (8面)
- 検証・鉄骨の需要／「昨年度が底」今後は緩やかに回復 (10～12面)
- 新会長に安藤純二氏／CIW検査業協会 (12面)
- 20年度後期適合工場93工場を公表／全国鉄骨評価機構 (13～15面)
- 2021年度役員名簿／全構協および正会員 (17～22面)
- 「橋梁と非破壊検査」テーマに／非破壊評価総合展開 (33面)
- HP刷新、仮オープンを審議／東構協 (40面)

44ページ



受注格差が拡大、鋼材高騰で経営負担増を懸念する声も

## 現状の需要などで情報交換

全構協・中国支部

全構協から米森会長らが出席

全国鉄構工業協会の中国支部(支部長＝福田秀章・大照建工社長)は14日、広島市内のホテルセンチュリー21で全構協の米森昭夫会長(ヨネモリ会長)と小貫武専務理事の出席のもと、令和3年度第2回定例会を開催した。

冒頭、福田支部長は「米森会長には全国の仕事量などの情報をお聞きしたい」とあいさつ。米森会長は「鋼材価格など環境が激しく変化している。先を見通すための各種情報を提供したい」と述べ、仕事量は年後半に大型物件の加

工が始まり大手ファブの稼働率が上がるが、中小物件は少ないため同業者間で協力することが重要になるとした。

支部所属5組合の理事長も各県の近況を報告。7月に入り物件数が増えたものの、企業間で受注格差が広がっていることが明らかになった。また、大半の組合から鋼材価格の上昇に伴う経営負担増を懸念する声も挙がった。

議事では島根県や鳥取県に避難情報が発せられた7月上旬の豪雨の影響について所属5県組合へ情報を求め、各県組合員に被害が出ていないことが分かった。福田支部長は「幸いにも被害がなかった。これを機に災害時の備えを見直してほしい」とした。

そのほか、全構協が会員に配布している『業種紹介ポスター』について、米森会長が業界に対する興味を喚起するデザインを採用したと説明し、「若者の目につく場所などに貼り出してほしい」と要請した。

# コア ピープル

## 新専務理事

全国鐵構工業協会

小貫 武氏



おぬぎ・たけし 1957年12月23日生まれ。茨城県出身。81年東京大学法学部卒後、川崎製鉄（当時）入社。03年西日本製鉄所外注室長、06年のJFEシビル出向を経て、09年にJFEスチール退職。10年JFEウエストテクノロジー取締役、17年瀬戸内共同火力代表取締役専務に就任。21年同社退社。夫人と子ども2人の4人家族、東京都在住。

今年6月に理事として入局、6月29日の理事会で専務理事に就任した。「初めて経験することも多く、しかも対応するテーマが多岐にわたり、日々緊張の連続」と今の心境を率直に披露。

## 「経験を業界で生かせるように」

きた。

「高い目標を設定し、それを一つずつ達成していくことで仕事のやりがいを実感させること」を、

人材育成、組織運営のポイントとして挙げ、その

経験を鉄構業でも挑戦したいと抱負を語る。

コロナ禍で会合等の行

事がリモートを中心とした対応となり、「なかなか皆様と直接お会いできないこと」が目下の課題。「人に対する理解や協力は相互の信頼関係のもとに成り立つと考えている。その意味における“対面”の必要性も常に念頭に置きながら行動していくようにしたい」と語る。

趣味は「ドライブが好き。地方勤務時代に家族と車で旅行した時が今でも楽しい記憶として残る。ハンドルを握っている時に良いアイデアが浮かぶ」という。（大熊）